

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査結果について

- 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 -

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

調査の実施学年

小学校(特別支援学校小学部を含む)第 6 学年

中学校(特別支援学校中学部を含む)第 3 学年

児童生徒に対する調査

教科に関する調査

小学校調査 国語・算数 中学校調査 国語・数学

A 主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

B 主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

調査実施日

平成 25 年 4 月 24 日(水)

教科に関する調査結果の概要

本市では、小学校、中学校の国語、算数・数学それぞれの A・B 問題において、いずれの平均正答率も全国に対して ± 5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差を認められないとする範囲内であるので、本市は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

A 問題では本市の平均正答率は、全国公立学校の平均正答率を上回ってはいるものの、差は 1 ポイント以内であるが、B 問題では、小学校国語、算数、中学校国語では約 3 ポイント、中学校数学では 1.2 ポイント上回っている。いずれの教科においても本市の平均正答率と全国の平均正答率との差は、A 問題に比べて B 問題の方が大きい。

教科に関する調査

本市の傾向：平均正答率が全国と3ポイント以上差がある設問を取り上げている。

領域ごとの結果の概要： 平均正答率から判断してよい状況と考えられる設問
平均正答率から判断して課題があると考えられる設問

小学校 国語

調査問題の趣旨・内容

- 国語 A - 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ことわざの意味を理解する。
資料を読み、分かったことを的確に書く。
広告を読み、編集の特徴を捉える。
スピーチの表現の工夫を捉える。
- 国語 B - 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。
(例) 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして助言をする。
目的や意図に応じ、内容を関係付けるなどしながら、リーフレットを編集する。
2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えるとともに、本や文章の読み方の違いを明確にする。

本市の傾向

A問題では、文の定義を理解し、文のはじめの5文字を丸で囲む設問(3一)において5.9ポイント、接続語「だから」を使って1文を2文に分けて書く設問(3二(1))において4.8ポイント、ことわざ(急がば回れ)の意味として適切なものを選択する設問(2二)において3.5ポイント上回っている。学年別漢字配当表に示されている漢字(めずらしい植物を採集する)を正しく読む設問(1一(3))において7.6ポイント、学年別漢字配当表に示されている漢字(バスがていしゃした)を正しく書く設問(1二(2))において4.5ポイント下回っている。

B問題では、全ての設問において全国の平均正答率を上回っている。【ずかんの一部】の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く設問(2二)において5.3ポイント、6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する設問(1二)において5.1ポイント、2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する設問(3二)において4.9ポイント上回っている。

領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- (B1一)助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する設問において、相手の立場や状況を感じ取って聞くことは、相当数の児童ができています。(82.2%)
- (A7)選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する設問において、スピーチの表現を工夫することについては、課題がある。(42.0%)

書くこと

- (A3二(1))接続語「だから」を使って1文を2文に分けて書く設問において、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについては、課題がある。(28.2%)

- (B 2 三) 現在の打ち上げ花火に関する複数の情報を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く設問において、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くことについては、課題がある。(18.4%)

読むこと

- (A 6 アイ) 焚火とその周りの景色との関係を表したものとして適切なものを選択する設問において俳句の情景を捉えることについては、課題がある。(46.0%)
- (B 3 一イ) 読書経験に基づいた推薦の理由を書く設問において、2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えることについては課題がある。(46.8%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- (A 2 二) 「急がば回れ」の意味として適切なものを選択する設問において、ことわざの意味を理解することは、相当数の児童ができている。(89.6%)
- (A 3 二(2)) 「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する設問において、接続語のもつ働きを理解することは、相当数の児童ができている。(85.1%)
- (A 3 一) 文のはじめの5文字を丸で囲む設問において、文の定義を理解することについては、課題がある。(42.4%)
- (A 1 二) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。
(1)焼く 70.1 % (2)停車 42.4 % (3)設ける 51.0%

授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

スピーチの効果を交流し、表現技法を高める

多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定し、話す目的や意図を明確に意識させるとともに、聞き手にどのように受け止められているか、相互に交流する場を設けることが効果的である。表現の工夫に関する事項「(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」と関連させ、比喩や反復、擬声語・擬態語、体言止めや倒置などの表現技法を活用することを指導する。

書くこと

目的や意図に応じて必要な内容を引用したり、関係付けたりして書く

自分の考えを明確に表現するためには、文章全体の構成の効果を考えるとともに、自分の考えを根拠付けるための具体的な例を引用したり、複数の事実を関係付けたりして書くことが大切である。本や文章などから必要な語句や文を抜き出して自分の表現に取り入れる場合は、原文に正確に行うことや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどを指導する。

読むこと

自他の読み方を交流し効果的な読み方を工夫する

多様な本や文章を読み、目的に応じて解説や推薦などの文章として考えをまとめ発表し合い、自他の読み方の工夫などについて交流することが、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。本の特徴を捉えて推薦するためには、本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦するための言葉などに注意して叙述を整えること、対象となる本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについて調べたりすることが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

当該学年までに配当されている漢字を習得する

各教科等の学習や日常生活で実際に使うことで、確実に習得できるように指導する。漢字の成り立ちやへん、つくりなどの構成に対する興味や関心を高めるとともに、中学年からは国語辞典や漢字辞典を日常的に利用し、自ら語彙を拡充しようとする習慣を身に付けさせることが重要である。

小学校 算数

調査問題の趣旨・内容

- 算数 A - 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) 整数、小数、分数の四則計算をする。
単位量当たりの大きさを求める式の意味として正しいものを選ぶ。
合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ。
基準量と割合を基に、比較量の大きさとして適切なものを選ぶ。
- 算数 B - 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
(例) 示された情報を基に条件に合うものを選択し、その理由を記述する。
表の数値を基に、二つの数量の関係が比例していない事実を記述する。
単位量当たりの大きさに着目して筋道を立てて考え、数量の関係を記述する。
基準量と割合の変化から比較量の大小を判断し、その理由を記述する。

本市の傾向

A問題では、余りのある除法の場面において、四捨五入で数を適切に処理する方法を理解する設問(2)において3.0ポイント、被除数を求める式を理解する設問(3)において3.7ポイント、基準量と比較量の大きさを理解する設問(8(1))において4.3ポイント上回っている。台形の面積の求め方を理解する設問(5(3))において3.7ポイント下回っている。

B問題では、三つの条件に全てにあてはまる乗り物を判断する設問(1(1))において5.4ポイント、二つの数量の関係が比例の関係でないことを数と言葉を用いて記述する設問(2(3))において3.9ポイント、台形の場合は4等分にならないわけを選択する設問において(3(3))において5.0ポイント、示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する設問(4(3))において6.8ポイント上回っている。4(2)において0.1ポイント下回った以外は、全国の平均正答率を上回っている。

領域ごとの結果の概要

数と計算

- (A 1(4)) $6 \div 5$ を計算する設問において、商が小数になる除法の計算をすることは、相当数の児童ができています。(88.3%)
- (B 1(1)) 残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く設問において、条件に当てはまる乗り物を判断することについては、課題がある。(56.4%)

量と測定

- (A 5(1)) 木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ設問において、曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解することは、相当数の児童ができています。(97.0%)
- (B 3(2)) 示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを各設問において、等しくなることを記述することについては、課題がある。(44.0%)

図形

- (A 7(1)) 円柱について、展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く設問において見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解することは、相当数の児童ができています。(89.5%)

(A6) 三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ設問において、合同な三角形をかくために必要な条件を理解することについては、課題がある。(64.0%)

数量関係

(A8(1)) 500gの120%に当たる重さについて、適切なものを選ぶ設問において、割合が100%を超えるときに、基準量と比較量の大きさの関係を理解することは、相当数の児童ができています。(81.0%)

(B4(3)) 示された式を基に北チームの勝ち点の合計を求める式を書き、勝ち点の合計と順位を書く設問において、計算の結果を基に判断することについては、課題がある。(57.4%)

授業改善に向けて

数と計算

説明を振り返り、説明に必要な対象や根拠を明らかにすることができるようにする

理由を説明する際には、筋道を立てて考えた過程を明確にして説明することが大切である。また、その説明を振り返り、説明する対象や根拠についてももれなく説明しているかについて見直すことが大切である。説明する対象を明らかにしていない説明や根拠となる事実が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて説明し合うことを通して、より一層の理解へつなげることができる。

量と測定

求積に必要な長さに着目し、面積が等しいことを合理的に表現できるようにする

図形の面積の大小または相等を判断するには、計算でそれぞれの面積を求めなくても、面積を求める公式から必要な長さに着目することで可能になる。求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることや必要な情報を自ら選び出し面積を求めることなどが重要である。また、高さを固定した平行四辺形や三角形について、底辺の長さが2倍や3倍になるときの面積の変化を考えさせることや長さが小数になる場合の面積を考えさせることなどが面積の公式の意味について理解を深めることにつながる。

図形

合同な三角形をかくための条件を見いだすことができるようにする

合同な三角形をかくために必要な条件を、三角形の形が一つに決まるという観点から調べることが大切である。合同な図形をかいたり、作ったりする活動を通して、どのような条件を用いれば合同な図形をかくこと、作ることができるかに着目することで、三角形の合同条件について実感的に理解できるようになる。また、かいたり、作ったりした図形が合同であるかどうか、条件にあっていないかどうかを確かめることにより、確かな根拠を基に説明する態度を育てる。

数量関係

割合が一定のときに、基準量の大小から比較量の大小を判断できるようにする

買い物の際に割引された金額を求めるなど、比較量を求める場合は、日常生活において数多く存在する。このとき、 $(\text{基準量}) \times (\text{割合}) = (\text{比較量})$ という関係を基に、割合が一定のときの比較量の大小を基準量の大小と関連させて判断することが必要である。児童が目的意識をもって、問題の解決に向けて、より適切な表やグラフを選択し、読み取り、判断するなど表やグラフを活用できるようにする。このような活動を通して、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにする。

中学校 国語

調査問題の趣旨・内容

- 国語 A - 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
(例) 話合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。
出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く。
前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する。
「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す。
- 国語 B - 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
(例) 「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く。
文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く。
間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する。

本市の傾向

A問題では、文脈の中で語句の意味を理解し、適切な語句（友達に将来の抱負を話す）を選択する設問（8三イ）において4.9ポイント、文脈に即して漢字（社会を風刺する）を正しく読む設問（8二二）において4.4ポイント、文章の展開に即して内容を捉え、「小麦はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する設問（5二）において4ポイント上回っている。文脈に即して漢字（着物に合わせてオビを選ぶ）を正しく書く設問（8一3）において6.5ポイント下回っている。

B問題では、全ての設問において全国の平均正答率を上回っている。文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く設問（2三）において5.4ポイント、間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する設問（3三）において3.8ポイント、新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問（3一）において3.5ポイント上回っている。

領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- （A6一）ボランティア活動をテーマに話すための取材の仕方の説明として適切なものを選択する設問において、話すための材料を多様な方法で集めることは、相当数の生徒ができています。（86.5%）
- （A6二）カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する設問において、論理的な構成や展開を考えて話すことは、相当数の生徒ができています。（83.3%）
- （A1一二）話合いでの司会の役割を理解することは相当数の生徒ができています（90.5%）が、話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすことについては、指導の充実が求められる。（56.6%）

書くこと

- （A3二）出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く設問において、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことについては、課題がある。（48.6%）

読むこと

- （A2二）「あの枯れ枝の梢を……うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する設問において、描写の効果を考え、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。（89.6%）

- (A5-1) 米の断面図に入る言葉として適切なものを選択する設問において、文脈の中における語句の意味を理解することは、相当数の生徒ができています。(87.1%)
- (B3-1) 新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問において、文章の構成や表現の特徴を捉えることについては、指導の充実が求められる。(64.5%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- (A8-4) 行書で書かれた漢字「板」を楷書で書く設問において、漢字の楷書と行書との違いを理解して書くことは、相当数の生徒ができています。(96.5%)
- (A8-5-2) 文脈の中で敬語を適切に使うことは、相当数の生徒ができています。(92.4%)
- (A8-3) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。
ア 閉口 47.1% イ 抱負 67.6%
- (A8-7-1) 「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す設問において、比喩を用いた表現を理解することについては、課題がある。(51.5%)

授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

司会の役割を理解し、状況に応じてその役割を果たす

司会の役割としては、討論が目的に沿って進むよう、話合いの方向を捉えて提案や発言の内容を整理したり、促したり、まとめたりすることなどがある。具体的な場面を設定して、進行の仕方や参加者への声の掛け方などを考えるように指導する。司会の役割に着目して話合いを振り返るためには、録音や録画などの機器を活用すると効果的である。

書くこと

目的に応じて伝えたい内容を適切に書く

報告をする文章を書く際には、目的に応じて伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように分かりやすい説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりすることが大切である。また、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、根拠となる部分が明確になるように記述することを指導する。自分の表現に役立てるために、文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり、助言し合ったりすることも効果的である。

読むこと

文章の構成や表現の特徴について自分の考えをもつ

新聞の事件や出来事の報道記事は、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されるという特徴がある。必要な部分に効率よく着目し、情報を読み取るためには、資料の特性を生かした読み方を身に付けることが求められる。様々な形態の文章を取り上げ、構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつことを指導することが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う

辞書的な意味を踏まえ、文脈の中における語句の意味が捉えられるように、多様な言語活動を通して指導する。語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることや、本などを読んで新しく出合った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えさせる学習が有効である。話すこと・聞くことの学習においても、同音の語句の意味に誤って理解されそうなときには、漢字を例示することでこれを避けるといったような活動を取り入れることが考えられる。また、小学校の学習を踏まえて様々な慣用句やことわざに触れ、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。

中学校 数学

調査問題の趣旨・内容

- 数学 A - 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
(例) 正の数と負の数とその計算, 文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、適切な記述を選ぶ。
事象から一次関数の式を求める。
平均値に関して、適切な記述を選ぶ。事象の起こる確率を求める。
- 数学 B - 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
(例) 安静時心拍数が一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する。
与えられた表やグラフを用いて水温が 80 になるまでにかかる時間を求める方法を説明する。
まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する。
基石全部の個数を、 $3(n - 2) + 3$ という式で求めることができる理由を説明する。

本市の傾向

A問題では、比例の表からグラフを選ぶ設問(10(3))において4.0ポイント、一次関数の表から、変化の割合を求める設問(11(2))において7.6ポイント、大小二つのさいころを同時に投げるときに出る目がともに1となる確率を求める設問(A14)において5.4ポイント上回っている。反比例の式からグラフをかく設問(10(4))においては6.1ポイント下回っている。

B問題では、事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明する設問(2(1))において3.3ポイント、自然数の性質について発展的に考え予想した事柄を説明する設問(2(2))において4.7ポイント、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問(3(2))において4.8ポイント上回っている。3ポイント以上下回っている設問はなく、全国の平均正答率を下回った設問は、(1(1))(3(3))(6(2))であった。

領域ごとの結果の概要

数と式

- (A3(3)) 数量の関係を連立二元一次方程式で表す設問において、具体的な事象における数量の関係を捉え、方程式をつくることは、相当数の生徒ができています。(84.1%)
- (B2(1)) 2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する設問において、その事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することに課題がある。(40.6%)

図形

- (A5(2)) 与えられた見取図から、その立体の投影図を選ぶ設問において、見取図、投影図から空間図形を読み取ることは、相当数の生徒ができています。(84.1%)
- (B4(1)) 2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する設問において、方針に基づいて証明することに課題がある。(33.0%)

関 数

- (A 1 1 (1)) 一次関数 $y = 2x - 1$ について、 x の値から y の値を求める設問において、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができています。(83.2%)
- (B 3 (2)) 与えられた表やグラフを用いて、問題解決を説明する設問において、事象を数学的に解釈し、解決の方法を数学的説明することに課題がある。(36.5%)

資料の活用

- (A 1 4 (2)) 6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める設問において、相対度数を求めることには、課題がある。(24.4%)
- (B 5 (2)) まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいを思う長方形について新たに分かることを説明する設問において、資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することには、課題がある。(25.9%)

授業改善に向けて

数 と 式

事柄を予想することができるようにする

数や図形に関する性質を考察する場面では、生徒自らが事柄を予想することができるようにするために、帰納したり類推したりして予想を立て、その予想を明確に表現し確かめる活動を取り入れることが考えられる。文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解できるようにするためには、文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現すること、文字を用いた式の意味を読み取ること、計算することなどの学習が総合的に行われることが重要である。

図 形

方針に基づいて証明することができるようにする

証明ができるようにするために、その方針に示された事柄を数学の記号で表したり、これらが成り立つ根拠を明らかにしたりして、仮定から結論を導く推論の過程を的確に表現する活動を取り入れることが考えられる。その際、図形のある性質について、推論が異なる二つの証明を読んでその相違点を説明したり、推論の過程にある誤りのある証明を読んでそれを指摘し改善したりするなど、証明を評価する活動を適宜取り入れていく。

関 数

日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えられるようにする

日常的な事象の問題を数学の世界で考察するために、事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりする場面を設定し、表やグラフに表すことを通して、これまでに学習した数学を使って解決できるように、事象を理想化・単純化する活動を取り入れることが考えられる。事象をとらえ説明する際は、何を明らかにしようとするかという目的意識をもち、事象をどのように解釈して数学の対象にするのかを明確にし、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し説明することが大切である。

資料の活用

不確定な事象について、目的に応じて資料を収集して整理し、資料の傾向を読み取って問題を解決できるようにする

不確定な事象についての問題を解決できるようにするために、新たな目的に応じて資料を分類整理し、資料の傾向を捉え直す場面を設定することが考えられる。日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するため必要な資料を収集し、コンピュータなどを利用してヒストグラムを作成したり代表値を求めたりして資料の傾向を捉え、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにすることが重要である。

学習や生活習慣などに関する質問紙調査

「質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば・・・」や「時々・・・」と回答した割合も含めている。

《全般》

【小学校】

400字詰め原稿用紙 2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べやや低くなっている。 H21 63.4% H25 59.0%

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べて、低くなっている。

H21 59.9% H25 54.0%

【中学校】

400字詰め原稿用紙 2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べやや低くなっている。 H21 70.4% H25 66.0%

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べて、低くなっている。 H21 71.7% H25 64.0%

<学習状況>

【小学校】

授業で、以下の取組をよく行っていると思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べ高くなっている。

- ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動 H21 48.9% H25 57.5%
- ・児童の間で話し合う活動 H21 73.1% H25 79.5%

授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べて、やや高くなっている。 H21 77.2% H25 81.1%

【中学校】

授業で、以下の取組をよく行っていると思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べ高くなっている。

- ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動 H21 24.3% H25 35.0%
- ・自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。 H21 69.7% H25 78.0%
- ・生徒の間で話し合う活動 H21 51.5% H25 71.3%

「授業で、自分の考えや発表する機会が与えられていると思う」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると、小学校は3.9ポイントとやや高く、中学校は8.3ポイント高くなっており、授業の中で子どもたちが発表する機会が多くなっていることがうかがえる。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の割合は、小学校は5.9ポイント、中学校は7.7ポイント低くなり改善していることから、自分の考えを書き、お互いの考えを出し合い、話し合ういわゆる思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりが進められていると考える。

< 学習時間等 >

【小学校】

(家庭学習)

以下と回答している児童の割合に、平成 21 年度に比べやや高くなっている。

- ・家で、学校の授業の予習をしている H21 31.0% H25 33.4%
- ・家で、学校の授業の復習をしている H21 31.9% H25 35.0%

以下と回答している児童の割合に、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている H21 54.4% H25 55.3%
- ・家で、学校の宿題をしている H21 93.4% H25 95.2%

(学習時間)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をすると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 57.0% H25 57.8%

学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上勉強をすると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べやや高くなっている。 H21 48.3% H25 51.9%

(学習塾)

学習塾で勉強をしていると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 60.6% H25 62.0%

【中学校】

(家庭学習)

以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ高くなっている。

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている H21 36.1% H25 42.2%
- ・家で、学校の授業の予習をしている H21 25.6% H25 32.0%
- ・家で、学校の授業の復習をしている H21 29.7% H25 36.8%

家で、学校の宿題をしていると回答している生徒の割合は、平成 21 年度とやや高くなっている。 H21 76.0% H25 78.6%

(学習時間)

以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ高くなっている。

- ・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする H21 63.7% H25 69.5%
- ・学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上勉強をする H21 51.9% H25 60.1%

(学習塾)

学習塾で勉強をしていると回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 70.0% H25 71.9%

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合は 21 年度と比べて小学校は 0.8 ポイントと大きな変化は見られないが、中学校では 5.8 ポイント高くなっている。小学校で約 6 割、中学校で約 7 割である。また、「学習塾で勉強をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約 6 割、中学校で約 7 割である。「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で 9 割を超えているのに対して、中学校では約 8 割である。このことは、中学生になると部活動や学習塾などがあり、放課後学習する場所や時間、内容が多様化していることがうかがわれる。これらのことから、学校では、児童生徒の実態に合わせ家庭学習の課題の与え方について、共通確認をして取り組んでいく必要がある。

< 学校生活等 >

【小学校】

学校で友達に会うのは楽しいと思うと回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 96.4% H25 96.5%

25 年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・学校に行くのは楽しいと思うと回答している児童 86.1% 全国 85.0%

【中学校】

学校で友達に会うのは楽しいと思うと回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 94.3% H25 94.0%

25 年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・学校に行くのは楽しいと思うと回答している生徒 80.1% 全国 80.5%

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも 8 割を超えており、楽しく充実した学校生活を送れている子どもたちが多いことがうかがわれる。また、「学校で友達に会うのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、大きな変化は見られないが、小中学校とも 95% 前後であることから、学校生活の楽しさには友達の存在が大きく関わっていると思われる。今後も、学校では子ども同士が支え合い、励まし合う場面を設定する必要がある。

< 家庭でのコミュニケーション等 >

【小学校】

以下と回答している児童の割合は、21 年度と高くなっている。

- ・家の人と学校での出来事について話をする H21 68.5% H25 75.0%
- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている H21 36.6% H25 52.1%

以下と回答している児童の割合は、21 年度と比べやや高くなっている。

- ・普段(月～金曜日)、家の人と一緒に夕食を食べている H21 84.3% H25 86.8%
- ・家の手伝いをしている H21 74.6% H25 77.6%

【中学校】

以下と回答している生徒の割合は、21 年度と比べ高くなっている。

- ・家の人と学校での出来事について話をする H21 56.7% H25 64.0%
- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている H21 45.3% H25 59.8%

以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。

- ・普段(月～金曜日)、家の人と一緒に夕食を食べている H21 77.4% H25 78.9%
- ・家の手伝いをしている H21 60.1% H25 61.5%

「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、小学校は 6.5 ポイント、中学校は 7.3 ポイント高くなっており、子どもたちが家族と関わりを望んでいることがうかがわれる。また、「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、小学校は 15.5 ポイント、中学校は 14.5 ポイント高くなっている。このことから、子どもたちの携帯電話等の使用率が高くなったことと関連して、各家庭において子どもと話し合い、それぞれのルールづくりを進めていることがうかがわれる。

< 基本的生活習慣 >

【小学校】

以下と回答している児童の割合は、21年度と比べ高くなっている。

- ・ 普段(月～金曜日)、午前 7 時より前に起きる H21 55.2% H25 61.1%
 - ・ 普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上テレビゲームをする H21 47.7% H25 53.7%
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答している児童の割合は、21 年度と比べやや高くなっている。 H21 70.2% H25 75.0%

以下と回答している児童の割合は、21 年度と比べ大きな変化は見られない。

- ・ 朝食を毎日食べている H21 95.1% H25 95.4%
 - ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている H21 87.1% H25 88.6%
 - ・ 普段(月～金曜日)、8 時間以上睡眠をとることが多い H21 69.5% H25 71.1%
- 土曜日の午前は、習い事やスポーツ、地域の活動に参加していると回答している児童が 24.0%、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていると回答している児童が 20.8%、午後は、習い事やスポーツ、地域の活動に参加していると回答している児童が 26.2%、友達と遊んでいると回答している児童が 16.5%である。

【中学校】

以下と回答している生徒の割合に、21年度と比べ高くなっている。

- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている H21 64.8% H25 71.0%
- ・ 普段(月～金曜日)、午前 7 時より前に起きる H21 45.8% H25 56.8%
- ・ 普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上テレビゲームをする H21 45.1% H25 50.2%

以下と回答している生徒の割合に、21 年度と比べ大きな変化が見られない。

- ・ 朝食を毎日食べている H21 89.9% H25 91.4%
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている H21 88.6% H25 90.1%
- ・ 普段(月～金曜日)、8 時間以上睡眠をとることが多い H21 25.3% H25 23.8%

土曜日の午前は、校の部活動に参加していると回答している生徒が 62.2%、午後は、学校の部活動に参加していると回答している生徒が 34.9%、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていると回答している生徒が 16.1%である。

「普段(月～金曜日)、午前7時より前に起きる」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると、小学校は 5.9 ポイント、中学校は 11.0 ポイント高くなっており、早起きの生活習慣が身に付いた子どもたちが増えている。「普段(月～金曜日)、8 時間以上睡眠をとることが多い」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも 21 年度と比べ大きな変化は見られないが、小学校で約 7 割、中学校で約 2 割である。中学生になると就寝時間が遅くなることがうかがわれる。また、「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は、小中学校と 21 年度と比べて大きな変化は見られないが、小中学校とも 9 割を超えている。

< 地域との関わり等 >

【小学校】

今住んでいる地域の行事に参加していると回答している児童の割合は、21年度と比べ大きな変化は見られない。

H21 45.8% H25 46.1%

【中学校】

今住んでいる地域の行事に参加していると回答している生徒の割合は、21年度と比べやや高くなっている。

H21 27.9% H25 30.2%

< 社会に対する興味・関心 >

【小学校】

25年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答している児童

56.2% 全国 57.4%

- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答している児童

34.6% 全国 38.6%

【中学校】

25年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答している生徒

48.4% 全国 51.8%

- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答している生徒

20.8% 全国 26.8%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約5割、中学校で約3割である。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約6割、中学校で約5割である。これは、子どもたちの町や地域の捉え方や行動範囲が年齢とともに広がり、生活を意識する社会が身近な地域だけではなくることがうかがわれるが、今後も学校と保護者が協力をして、子どもたちも地域の一員であるという意識をもたせ、地域社会に積極的に関わるができるよう、働きかけていく必要がある。

< 将来に関する意識 >

【小学校】

将来の夢や目標を持っていると回答している児童の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
H21 83.0% H25 85.2%

【中学校】

将来の夢や目標を持っていると回答している生徒の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
H21 68.4% H25 71.1%

< 自尊意識 >

【小学校】

以下と回答している児童の割合は、21年度と比べやや高くなっている。

- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している H21 69.5% H25 73.1%
 - ・自分には、よいところがあると思う H21 70.5% H25 74.3%
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると回答している児童の割合は、21年度と比べ大きな変化は見られない。
H21 92.9% H25 94.4%

【中学校】

以下と回答している生徒の割合は、21年度と比べ高くなっている。

- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している H21 56.9% H25 63.4%
 - ・自分には、よいところがあると思う H21 55.9% H25 65.0%
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると回答している生徒の割合は、21年度と比べ高くなっている。
H21 91.2% H25 94.1%

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると小学校は2.2ポイント、中学校は2.7ポイントとやや高くなっており、小学校で約8割強、中学校約7割である。また、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると小学校で3.8ポイントとやや高く、中学校では、9.1ポイント高くなっており、小学校で約7割強、中学校で約6割強である。また「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも9割を超えている。

これらのことから、学校では、ものごとを最後までやり遂げ、友達や教師から評価され、自分のよさを感じられる体験や将来の夢や目標を考える学習をそれぞれの発達段階に応じて積み重ねていくことが大切である。